

内灘町地域運動部活動推進事業における成果報告書

I 内灘町教育委員会

1 ①自治体概要（令和3年5月1日現在）

人 口 26,351人
面 積 20.33km²
人口密度 1,296人/km²

②教育（令和3年5月1日現在）

小学校 6校 児童数 1,457人
中学校 1校 生徒数 727人

2 スポーツ環境

①概要

内灘中学校を中心にスポーツ施設が隣接し、体育の授業や部活動に活用している。屋内プールは、冬季水泳部の活動場所としてスクールバスで移動し使用している。

②指導者

地域スポーツクラブの指導者数 24競技162人（うち公認資格所有者数18競技 97人）
指導者の確保状況 スポーツ指導者研修会の開催

③スポーツ施設

施設の種類	種類別施設数	面積	部活動による活用状況
体育館	3施設	4,451.77 m ²	バスケットボール部
柔道場	1施設	240.98 m ²	柔道部
武道場	1施設	240.98 m ²	—
弓道場	1施設	513.12 m ²	弓道部
陸上競技場	1施設	26,357.00 m ²	陸上競技部・サッカー部
野球場	1施設	21,500.00 m ²	—
運動広場	1施設	1,866.54 m ²	—
球技場	1施設	13,254.20 m ²	—
テニスコート	2施設	10,042.58 m ²	ソフトテニス部
屋内プール	1施設	2,484.14 m ²	水泳部

④地域スポーツクラブ

NPO法人ブラッツうちなだ 平成17年設立、平成20年NPO法人格取得
競技別の地域スポーツクラブ数 30競技77団体

⑤スポーツ協会

26競技団体（うち部活動と同じ競技は13競技）

3 地域移行に向けて

①将来像

地域移行に係る計画の有無 無

②直面している課題

生徒数は10年で約8割に減少しているが、部活動数に変動はないため、顧問が1人だけの運動部も生じている。

教職員の時間外勤務時間について月80時間を超える割合が県平均を上回っている。(令和元年度、令和2年度)

③今後の方向性

町教育委員会内における学校教育と文化スポーツの両部局の連携。

地域スポーツクラブ及びスポーツ協会と連携し、外部指導コーチの増員と対象部活動の拡大を検討。

④必要な支援

地域移行にかかる手順、計画案の提示

上部関係団体への情報提供、協議会の設置

II 内灘中学校(拠点校)

1 基礎情報

①内灘中学校(拠点校)の基礎情報

所在エリア 内灘町南部の中央に位置

所在エリアの特徴 内灘中学校を中心にスポーツ施設が隣接

教員数 47人 生徒数 727人

②内灘中学校(拠点校)の部活動の基礎情報

部活動	運動部	13競技17部	文化部	8部
-----	-----	---------	-----	----

部員数	運動部	479人	文化部	177人
-----	-----	------	-----	------

顧問	運動部	28人	文化部	10人
----	-----	-----	-----	-----

外部指導者	運動部	7競技9部17人	文化部	0部0人
-------	-----	----------	-----	------

活動頻度 平日4日、休日1日

部費の負担 水泳部、男女卓球部なし

2 実践研究内容

①実践課題

水泳部、男子卓球部、女子卓球部の休日部活動について、外部指導コーチのみによる指導とした場合の課題・問題点を検証する。

②課題に取り組むに至った背景・理由

水泳部、男子卓球部、女子卓球部では、外部指導コーチによる指導をこれまでも行っており、定期指導が可能だったため。

③実施方法

- ・水泳部、男子卓球部、女子卓球部において、休日の地域運動部活動を実施する。
- ・地域運動部活動推進事業検討会議及び連絡会議を実施する。
- ・生徒、保護者、外部指導コーチ、顧問、学校長にアンケートを実施し、課題を洗い出す。
- ・解決できた課題と積み残した課題を整理し、次年度につなげるとともに、他の市町に取組を紹介するとともに、他競技の部活動への波及を狙う。

④指導体制

外部指導コーチ 3名

部活動名	競技歴	指導歴	指導者資格	現所属	謝金
水泳部	42	34	水泳指導員 スポーツプログラマー	会社員	1,600 円/時間
男子卓球部	31	20	なし	自営業	1,600 円/時間
女子卓球部	40	25	JSP0 公認 スポーツリーダー	会社員	1,600 円/時間

⑤活動場所 水泳部 屋内温水プール

男子卓球部 内灘中学校卓球場・勤労者体育センター

女子卓球部 内灘中学校卓球場・勤労者体育センター

⑥活動場所の確保方法 学校部活動の活動場所や卓球協会の活動場所を確保

3 実践研究結果

(1) 地域運動部活動推進事業検討会議及び連絡会議の開催

検討会議 参加者：学校、外部指導コーチ、保護者代表、地域スポーツクラブ職員、事務局

第1回 7月19日(月) 事業概要・事業計画の説明、方針の確認 19人参加

第2回 12月14日(火) 活動状況、第1回アンケート結果報告 17人参加

第3回 2月10日(木) 活動実績、第2回アンケート結果報告 ※感染症対策のため中止

連絡会議 参加者：学校、外部指導コーチ、事務局

第1回 9月16日(木) 活動開始前に実施内容、連絡方法の確認 9人参加

(2) 地域運動部活動の活動状況

水泳部 生徒12人参加 10月～1月 通常練習11回 大会引率1回 計27.25時間

男子卓球部 生徒11人参加 9月～1月 通常練習10回 大会引率4回 計58時間

女子卓球部 生徒13人参加 9月～1月 通常練習12回 大会引率2回 計51.50時間

(3) アンケートの実施

1回目 実施期間 11月17日～11月30日

回答者 生徒36人、保護者35人、外部指導コーチ3人、顧問3人、学校長1人

2回目 実施期間 2月1日～2月7日

回答者 生徒33人、保護者32人、外部指導コーチ3人、顧問3人、学校長1人

< 1回目アンケート結果 >

【生徒】

問1：部活動に所属している最大の目的 ※当てはまる番号を1つ選ぶ

回 答	回答数
① 大会・コンクール等で良い成績を収める	7
② チームワーク・協調性・共感を味わう	6
③ 体力・技術を向上させる	10
④ 友達と楽しく活動する	10
⑤ 部活動以外に取り組めるものがない	0
⑥ 学校以外に活動場所・施設がない	0
⑦ その他の目的	0
⑧ 特にない	3

問2：学校部活動・地域部活動は楽しいですか。

回 答	学校部活動	地域部活動
① 当てはまる	19	15
② どちらかといえば、当てはまる	15	18
③ どちらかといえば、当てはまらない	2	3
④ 当てはまらない	0	0

問3：学校部活動・地域部活動に積極的に参加していますか。

回 答	学校部活動	地域部活動
① 当てはまる	19	15
② どちらかといえば、当てはまる	15	17
③ どちらかといえば、当てはまらない	2	4
④ 当てはまらない	0	0

問4：地域部活動の日があることで良かったこと・悪かったことはありますか。

回 答	良かったこと	悪かったこと
① 当てはまる	5	3
② どちらかといえば、当てはまる	10	4
③ どちらかといえば、当てはまらない	15	4
④ 当てはまらない	4	25

<良かったこと>

- ・コーチに教えてもらえる。
- ・いつもと違う視点でアドバイスをもらったり、新しい練習法を学べる。
- ・コーチの見る時間が増えたことで教えてもらう回数が増えた。

- ・タイムが少しずつだが上がってきている。
- ・小学生の時から指導を受けているので原点に戻れる
- ・早起きすることができるし、朝から運動ができる。
- ・部の人たちと楽しく関わったり会話ができた。
- ・普段の部活でできないことを経験することができる。

<悪かったこと>

- ・前の日の夜になって地域部活動に変わったことがある。
- ・先生に日誌が渡しづらい。
- ・女性の上手な人から教えてほしい。

【保護者】

問1：学校部活動・地域部活動は楽しく参加していますか。

回 答	学校部活動	地域部活動
① 当てはまる	19	16
② どちらかといえば、当てはまる	13	14
③ どちらかといえば、当てはまらない	3	6
④ 当てはまらない	0	0

問2：地域部活動の日があることで良かったこと・悪かったことはありますか。

回 答	良かったこと	悪かったこと
① 当てはまる	16	7
② どちらかといえば、当てはまる	14	10
③ どちらかといえば、当てはまらない	6	14
④ 当てはまらない	0	1

<良かったこと>

- ・経験深い、上手なコーチに指導していただけることは貴重な経験だと感じている。
- ・競技に特化した指導者がいた方がメリハリがあり、専門的な練習ができ上達できる。
- ・初心者に対して丁寧に指導していただけることで、安心して取り組めた。
- ・より多くの人から指導していただくことで、より成長ができると思う。
- ・ずっと外部コーチに教えてもらっていると思うので、ちゃんと成長しているようだ。
- ・小学校からしている場所で生き生きしている。
- ・子供の良い点、悪い点などハッキリと伝えてもらえる。
- ・地域の方と触れ合える。
- ・朝から運動できる。
- ・部活休みの日でも、本人のやる気があれば地域の練習に参加できる。まわりの指導者に恵まれている。
- ・学校教員の負担が減る。

<悪かったこと>

- ・仕事の都合で送迎が困難なことが多いため不憫。
- ・今日は顧問の先生が来るのかどうか分からない日があり連絡するのに困った。
- ・時間の使い方がタイトになるため、平日の勉強の時間や睡眠時間が削られ慌ただしく疲労が強い様子。
- ・土日に試合があるとしんどいと文句を言っている。親も仕事で送迎がいつも大変。

問3：持続可能な部活動に向けた在り方について、どのように考えますか。

回 答	回答数
① 多少のお金がかかっても実技指導者を配置する	8
② 保護者がもっと部活動に協力する	2
③ 将来的に学校から地域の活動へ移行させる	4
④ できる範囲で今までどおり学校・教員が担う	9
⑤ 部活動はなくて良い	0
⑥ 特段の意見はない・わからない	12

問4：地域部活動について、どのように思われますか。

回 答	回答数
① 世の中の流れとして、受け止めている	33
② 反対である	0
③ わからない	2

【外部指導コーチ】

問1：外部指導コーチのみでの指導に負担感を感じますか。

回 答	回答数
① 当てはまる	0
② どちらかといえば、当てはまる	0
③ どちらかといえば、当てはまらない	2
④ 当てはまらない	1

問2：外部指導コーチのみでの指導に負担感を感じますか。

※該当する番号はすべて選択

回 答	回答数
① 本業と外部指導コーチの仕事の時間調整が難しく両立できるか不安	0
② 本業の職場の方々に外部指導コーチの理解があるのか不安	0
③ 外部指導コーチを継続的にできるのか不安	1
④ 事故が起こった時の責任・賠償への不安	3

【顧問・校長】

問1：地域運動部活動は部活動顧問の負担軽減につながるといいますか。

回 答	校長	顧問
① 当てはまる	1	1
② どちらかといえば、当てはまる	0	2
③ どちらかといえば、当てはまらない	0	0
④ 当てはまらない	0	0

<どのような負担が減ったか>

- ・心理的・身体的に余裕ができた。授業の準備時間が少し増えた。
- ・時間外勤務時間が減った。

<2回目アンケート結果>

【生徒・保護者】

問1：地域運動部活動に参加して良かった。参加させて良かった。

回 答	生徒	保護者
① 当てはまる	6	15
② どちらかといえば、当てはまる	18	13
③ どちらかといえば、当てはまらない	9	4
④ 当てはまらない	0	0

<生徒：良かったこと>

- ・具体的に指導してくれる。
- ・いろいろな知識を学ぶことができた。
- ・前よりも体力がついた。
- ・外部指導コーチの意見が聞けてよかった。
- ・色々な種類の練習ができて力がついた。
- ・いろいろな人のアドバイスを聞けるから。
- ・普通の部活動と違った練習ができる。

<保護者：良かったこと>

- ・コーチの経験が豊富でたくさんのが学べた。
- ・専門的な技術指導を受けられ、より上達するから。
- ・外部コーチに報酬が出る。先生の時間外が減る。
ただ、モチベーションの低い生徒が地域部活動に積極的に参加できるのか疑問。
- ・外部コーチにより、体力作りやタイムの向上等成長がみられた。
- ・指導者が増えることにより、それぞれの違った視点で指導してもらえる。
- ・学校の先生以外で、地域の大人の方に見守ってもらえる。
- ・普段の部活動とは違った練習方法やアドバイスが受けられて良かった。

問2：地域運動部活動を自由参加とした場合、積極的に参加しますか。参加させますか。

回 答	生徒	保護者
① 当てはまる	11	11
② どちらかといえば、当てはまる	15	15
③ どちらかといえば、当てはまらない	4	6
④ 当てはまらない	2	0

問3：部活動は、曜日にかかわらず学校の教員による指導が良いと思う。

回 答	生徒	保護者
① 当てはまる	5	1
② どちらかといえば、当てはまる	4	3
③ どちらかといえば、当てはまらない	20	21
④ 当てはまらない	4	7

<生徒：教員による指導が良いと思う理由>

- ・全体的に丁寧でわかりやすい。
- ・生徒の意見を取り入れやすい。
- ・身近に先生方がいるから。
- ・専門的な実技指導だけでなく、生活面などの指導も受けられるから。

<保護者：教員による指導が良いと思う理由>

- ・部活が学校生活の延長と考えると様々なことを共有できることは生徒にとって大切。
- ・教員指導だと他のことにもいい影響があると思う。
- ・安心感。

問4：休日は外部指導コーチのみによる地域運動部活動に移行しても良い。

回 答	生徒	保護者
① 当てはまる	10	9
② どちらかといえば、当てはまる	11	17
③ どちらかといえば、当てはまらない	11	4
④ 当てはまらない	1	2

<生徒：地域運動部活動に移行しても良いと思う理由>

- ・先生の負担が軽くなるから。しかしコーチ1人で大変だと思う。
- ・先生も休日は必要で自由に時間を使ってほしいから。
- ・先生は学校のことで忙しいと思うから。
- ・コーチを信頼しているから。
- ・専門的な実技指導が受けられるから。
- ・違う観点で教えてくれるから。
- ・普通の部活動とは違った練習ができるから。

<保護者：地域運動部活動に移行しても良いと思う理由>

- ・先生の負担軽減になり、コーチからも学ぶことが多い。
- ・平日は学校、休日でも部活で出勤となると先生の負担が大きいから。
- ・先生の負担を減らして学問に力を入れてほしい。
- ・部活動に関わる負担を分散した方がよい。かかる費用は税金から支出される制度を。
- ・専門的なことを教えてもらえるから。
- ・子ども達がコーチに慣れ親しんでいるから。

問5：部活動で感じている問題点は。 ※当てはまる番号があれば3つ以内

回答	生徒
① 部活動の時間・日数が長すぎる	3
② 部活動の時間・日数が短すぎる	3
③ 学業との両立ができない	6
④ 肉体的(精神的)な疲労がたまる	11
⑤ 部活動の指導が厳しい	0
⑥ 専門的な実技指導が受けられない	0
⑦ 顧問や外部指導コーチとよい関係がつかれない	0
⑧ 他の部員とよい関係がつかれない	0
⑨ その他の問題	1
⑩ 特に問題はない	14

【外部指導コーチ・顧問・校長】

問1：地域運動部活動の成果

- ・部活動の顧問の負担は減ったと思う
- ・生徒1人ひとりのレベルが分かり、技術面、精神面がはかれるので指導方法を考案でき、有意義な時間がとれた。
- ・生徒のここのレベルに合わせた問題点を、一つ一つ改善するための指導ができた。
- ・わずかではあるが負担軽減になったと言える
- ・休日の部活動を委託することで、休日を取れるに数が大幅に増えありがたかった。
- ・職員の勤務時間が削減された。
- ・土日における職員の部活動指導時間の軽減。働き方改革。

問2：地域運動部活動の課題

- ・活動に制限が多い。やる気のある生徒には良いが、そうでない生徒は参加に抵抗感がある。地域の指導者不足。
- ・部活動と地域部活動の休みまたは地告辞の連絡体制が不十分。生徒の指導を受ける態度、指導を受ける意識レベルの向上。生徒、保護者とのコミュニケーション不足。
- ・練習日の共有と大会を含めた送迎。
- ・連絡方法。現在はグループLINEを使っているがやや不便。

- ・他競技に展開していくには指導者の不足が課題になると思う。
- ・通常の部活動と地域運動部活動の連携。出欠の確認、対外試合、保護者連絡。
- ・どの部活動でも地域運動部活動ができる基盤（人材、予算、制度等）を築いていくこと。

問3：地域運動部活動の課題を解決するために工夫したこと、必要となること

- ・部活動としてではなく、切り離した方が良いのでは。もっと自由に指導できるようにした方が良い。指導者の育成が必要。
- ・地域部活動をする上で生徒、保護者の説明会等目的を明確化していく。指導する側の定期的な研修会等。
- ・学校側と事前に確認しながら、保護者、生徒にも連絡ができた。
- ・コーチを連絡を密にすることで、共通理解、共通実践を図った。今後クロームブック等を利用できれば良い。
- ・各市町競技団体における適任指導者の早期選出。教育委員会から協会への呼びかけ。
- ・部活動顧問と地域指導者の情報共有、指導内容の共通理解。保護者連絡の手段の統一。

問4-1：休日は外部指導コーチのみによる地域運動部活動に移行は可能である。

回 答	コーチ
① 当てはまる	0
② どちらかといえば、当てはまる	3
③ どちらかといえば、当てはまらない	0
④ 当てはまらない	0

<可能と思う理由>

- ・これまでも同様に活動していたから。
- ・休日は、地域部活動が行われていなくても、部活動、大会等に参加している。部活がない日も練習している。
- ・学校側と協会側で連携がとれていたから。

問4-2：休日は外部指導コーチのみによる地域運動部活動に移行する方が良い。

回 答	顧問	校長
① 当てはまる	2	1
② どちらかといえば、当てはまる	1	0
③ どちらかといえば、当てはまらない	0	0
④ 当てはまらない	0	0

<良いと思う理由>

- ・決められた時間の中、休日も部活となると教員自身の健康が守られない。また、生徒も専門的な指導を受けられるので良いと感じている。10月から1月でやってみたが、過労死ラインと言われる月80時間を下回ったのは1月のみだったことから、休日のみならず平日も含めて移行することを本格的に考えていくべき。

- ・教員の労働時間の多くを部活動指導に割いているのが現状であるから。
- ・教員が部活動を見ることの負担軽減。(働き方改革) スポーツ、地域部活動、競技力向上、スポーツに親しむなど様々なニーズに地域を将来担う子ども達をどのように育成していくかという大きなテーマもあると考えている。

問5：地域運動部活動に移行した場合、外部指導コーチの部活動指導に係る

1時間当たりの適切な報酬額(交通費等の実費弁償費用を除く。)

回答	保護者	コーチ
① 0円(ボランティア)	1	0
② 1,500円未満	7	0
③ 1,500円～2,000円未満	2	2
④ 2,000円～2,500円未満	4	0
⑤ 2,500円～3,000円未満	0	0
⑥ 3,000円～3,500円未満	1	0
⑦ 3,500円～4,000円未満	1	0
⑧ 4,000円～4,500円未満	0	0
⑨ 4,500円～5,000円未満	0	0
⑩ 5,000円以上	1	0
⑪ 知らない・わからない	15	1

4 実践研究の成果と課題

①運動部活動改革の目的・目標について

<成果>

- ・地域運動部活動の実施により、顧問の時間外勤務の削減や心理的・身体的な負担軽減につながった。
- ・生徒、保護者アンケートの結果から、地域の方と触れ合える機会となって良かったとの意見があり、地域との連携やスポーツ振興、生涯スポーツへの推進といった効果が期待できる。

②地域移行する前の運動部活動の在り方

<成果>

- ・平成30年度策定の「内灘中学校 部活動(運動・文化部)の活動方針」に基づき、適切な運営のための体制整備や適切な休養日等の設定を行っていたが、地域運動部活動推進事業を実施したことで運動部活動の改革、学校の働き方改革、地域との連携等を強化し、推進する機会となった。

<課題>

- ・生徒数は10年で約8割に減少しているが、部活動数に変動はないため、顧問が1人だけの運動部も生じている。生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の実現のために、さらなる検討が必要である。

③地域への移行の在り方

<成果>

- ・地域運動部活動推進事業に取り組んだ水泳部、男子卓球部、女子卓球部は、外部指導コーチによる指導を日常的に行っていたことから、生徒及び保護者と外部指導コーチとの信頼関係が築けており、休日に外部指導コーチ1人による指導となっても、スムーズに実施することができた。
- ・生徒のアンケート結果では、地域運動部活動では、顧問とは違った視点の指導を受けられたことや、普段と違う練習ができて良かったとの意見もあり、必ずしも学校部活動と同じ練習内容や指導が求められているのではないことが分かった。
- ・学校部活動と地域運動部活動で指導方法や練習内容の情報共有のため、顧問と外部指導コーチとの連絡を密にすることや日誌を活用するなど方法もとられた。
- ・生徒、保護者アンケート結果では、部活動は曜日にかかわらず学校の教員による指導がよいと思うといった意見も一定数あったが、休日は外部指導コーチのみに移行しても良いといった意見も多く、専門的な指導を受けられるといった理由だけでなく、顧問の負担軽減を求める理由が多かった。

<課題>

- ・今後、着実に運動部活動の地域移行を進めるためには、生徒・保護者から理解、信頼を得ることが重要であり、そのためには外部指導コーチによる指導の実績、経験を重ねていく必要があると考える。
- ・学校部活動と地域運動部活動のどちらなのか、変更した場合の一斉の連絡方法として、グループLINEを活用したが、学校においてはクロームブックを使用しているため、連絡手段の検討が必要である。
- ・休日定期的な指導が可能である指導者を有していない協会もあるため、長期的な取り組みが必要であり、地域移行の達成時期についてはさらに時間を要すると考える。

④運動部活動の地域での受け皿について

<課題>

- ・各協会の指導者が外部指導コーチとなることが考えられるが、学校・保護者・指導者間を調整し、継続的な運営が可能な組織・団体には、地域スポーツクラブが受け皿として適当であると考えられる。ただし、そのためには地域スポーツクラブの体制が現状のままでは負担が大きく、整備、見直しが必要と求められる。

⑤指導者について

<成果>

- ・外部指導コーチによる指導を日常的に行っていたことから、休日に外部指導コーチ1人による指導のみとなっても、大きな問題はなく、スムーズに実施することができた。

<課題>

- ・水泳部、男子卓球部、女子卓球部については、複数の外部指導コーチが配置できないか検討したが、各協会において定期的に指導が可能な指導者がおらず、各部1名の配置となってしまった。生徒の負傷事故や緊急時の対応には、複数名の配置や支援体制の整備が必要である。
- ・指導者の人材の確保、育成については、各協会だけに頼るのではなく、地域スポーツクラブなどの指導者研修会や競技者から指導者への移行、両立を進める取り組みが求められる。
- ・教員の兼職兼業は、現状の時間外勤務時間数では許可することができなかった。指導を希望する職

員については、校務分掌等の見直しや業務の負担軽減がなされない限り兼職兼業を許可することは難しい状況にある。

⑥施設について

<現状>

- ・学校体育施設については、これまでも学校開放を行っており、地域運動部活動を実施する場としても活用が可能である。
- ・施設の円滑な使用のため、町文化スポーツ課及び地域スポーツクラブにおいて各組織・団体、学校等の間において調整・連携を図っている。

⑦会費について

<課題>

- ・水泳、卓球においては、各協会においても参加費等は徴収しておらず、地域に移行し指導者報酬を保護者負担とした場合は、経済的に困窮する家庭については、就学援助等での支援を検討する必要があると考える。また、適正な指導者報酬額は、参加者数なども考慮し設定検討が必要である

⑧保険について

<課題>

- ・地域スポーツクラブでは、スポーツ安全保険の保険料負担を必須としており、地域運動部活動においても安心して参加できるよう、指導者や参加者についても同様の保険に、加入することが望ましいと考える。
- ・経済的に困窮する家庭については、就学援助等での支援を検討する必要があると考える。

5 今後の方向性

- ・全児童生徒とその保護者、教職員の意向を調査し、運動部だけではなく文化部も含めた部活動の将来像を定める。
- ・地域移行に向け地域スポーツクラブ、スポーツ協会との連携を強化し、外部指導コーチの増員を要請していく。
- ・休日部活動の地域移行だけでなく、持続可能な部活動と学校の働き方改革の実現につながる方策のさらなる検討を進める。

6 まとめ

①どのようにしたら関係団体と円滑に地域移行を推進できる体制を構築できるか

- ・学校、町教育委員会学校教育及び文化スポーツ部局、地域スポーツクラブ、スポーツ協会を構成員とした協議会を設置し、情報共有を図る。
- ・各組織における他市町間での情報交換を行う場を創設することで、共通課題の解決や移行推進を図る。

②どのような支援が拠点校の取組や関係団体の協働を効果的に促進することができるか

- ・地域移行するためには、各組織ごとに何から取り組むべきか細かな手順や進め方を例示する。

- ・ 県内市町の各競技における地域移行の進捗状況をまとめることで、自治体内の地域移行を促す。

③どのようにして、それぞれの課題を克服していくのか

- ・ 学校・保護者・指導者間を調整する役割を担えるよう地域スポーツクラブへの人的支援を行う。
- ・ 指導者の確保のために、地域スポーツクラブでの指導者研修会開催や各競技団体において競技者から指導者への移行、両立を進める取組を推進する。
- ・ 指導を希望する職員については、校務分掌等の見直しや業務の負担軽減を行う。
- ・ 保護者の費用負担については、経済的に困窮する家庭については、就学援助等での支援を検討する。

④どうすれば改革の取組を円滑に他地域に普及していけるのか

- ・ 生徒・保護者から理解、信頼を得ることが重要であり、そのためには外部指導コーチによる指導の実績、経験を重ねが必要である。
- ・ スポーツ少年団等小学生を対象としている指導者について、中学生を対象とした指導も継続して行ってもらおう。
- ・ 外部指導コーチに安心して指導してもらえるよう、緊急時の対応ができる組織の整備やマニュアルを作成する。

⑤実践研究における活動実績や得られたデータ

- ・ 3 実践研究結果の（2）地域運動部活動の活動状況、（3）アンケートの実施参照。